

## 第69回日本食道学会学術集会開催について



第69回日本食道学会学術集会 会長  
 東海大学医学部 消化器外科  
 小澤 壯治

このたび、第69回日本食道学会学術集会を平成27(2015)年7月2日(木)・3日(金)の2日間、横浜みなとみらいエリアのパシフィコ横浜にて開催いたします。この伝統ある学術集会を主催する機会を賜り、あらためまして会員の皆様に感謝申し上げます。

近年の科学技術の急速な発達や新しい発見により、医学も大いに影響を受け、進歩の道をたどっています。悪性良性を問わず、食道疾患に対する診断と治療もこの数年でより一層、多様かつ横断的となりました。従来の外科的治療に新たな手術方法である内視鏡下手術が加わり、また薬物療法や内視鏡治療などの内科的治療、そして放射線治療が行われています。さらに、周術期管理も重要視されるようになりました。高度な知識と技術が求められる食道疾患に対する診断と治療において、基礎研究や臨床研究の結果を巧みに組み合わせ、より専門的に検証を進めていくことが重要であると考えています。そこで、第69回学術集会では、テーマを「挑戦とその検証」といたしました。

教育セミナーが学術集会前日の開催となり、学術集会が2日間開催可能となりましたおかげで、充実したプログラムを組むことができました。まず国際シンポジウムでインド・香港・台湾・韓国・日本の各ハイボリュームセンターから演者を招聘し、「アジアにおける食道扁平上皮癌の治療」について各施設の現況を中心に発表いただくことにいたしました。さらに、シンポジウム「食道癌の内視鏡下手術— 2015年までの総括—」、パネルディスカッション「食道癌の術前補助療法の功罪—補助療法無効例の選別と周術期の対策—」、「食道再建法・吻合法—最良の方法は—」、「GERD, Barrett食道癌の診断と治療—とくに治療法の選択について—」、「頸部食道癌の治療戦略—CRTと外科的治療の住み分けと合併治療—」、「食道癌ESDの適応拡大—追加治療の必要性和経過観察法について—」、そしてワークショップは「食道癌狭窄・穿孔の治療—バイパス手術とステント挿入—」、「食道癌術後合併症の診断と治療—新しい工夫—」、「食道運動障害の診療—新しい診断法と最も有効な治療について—」を企画いたしました。

主要セッション以外の発表は原則としてポスター発表としますが、動画を使った発表が望ましいと判断した演題についてはビデオ発表をお願いしました。また、ポスター発表とビデオ発表の中から優れた演題を優秀演題として選ばせていただき、口演発表のみならず、会場周辺にポスターも掲示予定です。

第69回学術集会から主要セッションでの発表は「英語スライド」になります。本学術集会の準備中に開催された理事会で決定されたことですが、日本食道学会の国際化に向けた活動のきっかけとなれば幸いです。

海の青さが眩しく感じる7月の第1週目、国際色豊かな横浜の地で、学際的な議論が交わされることを期待しています。皆様、どうぞよろしく申し上げます。

第69回 The 69th Annual Meeting of the Japan Esophageal Society  
**日本食道学会学術集会**  
**挑戦とその検証 Challenge and Its Verification**

会期 ● 2015年7月2日(木)～3日(金)  
 会場 ● パシフィコ横浜会議センター  
 〒220-8577 横浜市西区みなとみらい2-1-1 TEL: 045-511-1000

会長 ● 小澤 壯治 東海大学医学部消化器外科 教授

平成27年度 教育セミナー  
 (第69回日本食道学会学術集会前日開催セミナー)  
 2015年7月1日(水) パシフィコ横浜 会議センター

演習募集  
 期 間 2014年12月1日(月)正午～  
 2015年1月22日(水)正午

〒100-8302 東京都千代田区千代田1-3-1 TEL: 03-5561-1121 FAX: 03-5561-0911  
 〒100-8302 東京都千代田区千代田1-3-1 TEL: 03-5561-1121 FAX: 03-5561-0911  
 〒100-8302 東京都千代田区千代田1-3-1 TEL: 03-5561-1121 FAX: 03-5561-0911  
<http://www.congre.co.jp/jes2015/>

## 教育委員会より

お知らせ

教育委員会 委員長

土岐 祐一郎(大阪大学大学院医学研究科 消化器外科)

## ● 日本食道学会教育セミナー

平成27(2015)年度日本食道学会教育セミナーを、7月1日(水)午後3時～6時、パシフィコ横浜で開催します(本年は学術集会前日に教育セミナーを開催することになっておりますので、ご注意ください)。

《セッション》

- 1: 胸部食道癌の再建 (がん研有明病院・渡邊雅之先生)
- 2: 食道外科と呼吸器外科 (順天堂大学・鈴木健司先生)
- 3: 食道アカラシアの病態と手術  
(国立病院機構西埼玉中央病院・小村伸朗先生)
- 4: 食道癌のPET (獨協医科大学・加藤広行先生)
- 5: 食道癌の分子生物学  
(国立病院機構九州がんセンター・藤也寸志先生)
- 6: 食道癌の粒子線治療  
(放射線医学総合研究所・安田茂雄先生)

受講料は事前申込み4,000円(受付期限6月15日まで)、当日申込み5,000円です。学術集会参加者は無料で聴講(テキスト・受講証なし)も可能です。詳しくは本学会HPをご参照ください。

◆ [http://www.esophagus.jp/educational\\_seminar2015.html](http://www.esophagus.jp/educational_seminar2015.html)

## ● 食道手術実地研修プログラム

教育委員会では、本学会会員の皆様に(暫定)食道外科専門医の手術を実際に見ていただく「食道手術実地研修プログラム」を2015年1月より開始いたしました。学会では学べない実際の手術現場での研修を通じて、明日からの食道癌診療につなげていただければ幸いです。

詳しくは本学会HPをご参照ください。

◆ [http://www.esophagus.jp/educational\\_program.html](http://www.esophagus.jp/educational_program.html)

## 各種委員会・部会報告

### 平成27年度日本食道学会評議員の選任について

選挙管理委員会 委員長 (選挙管理委員会より)

藤 也寸志(国立病院機構九州がんセンター)

非選挙評議員選考委員会 委員長

河野 辰幸(東京医科歯科大学大学院 消化管外科学分野)

この度、平成27年度日本食道学会評議員選挙が行われました。評議員の任期は4年です。役員・評議員選任規則(定款施行細則第3号)に基づいて、昨年末の告示、異議申立期間を経て、平成27年1月から立候補を受け付けました。最終的に398人の会員が立候補され、3月～4月にかけて1,692人の会員から投票していただきました。4月13日に開票し、定員の350人を選出しました。任期途中で年齢などの理由により欠員が生じた場合、次点からの繰り上げ補充になります。

選挙評議員が決定した後に、食道疾患に関する診療・研究業績ならびに専門性など学会運営上の必要性を考慮して、非選挙評議員選考委員会において非選挙評議員候補49人が選出され、理事会へ推薦され理事会により選任されました。多くは非外科系の会員から選出しました。選挙評議員と合わせて計399人の評議員となります。

本評議員選挙を通じて、立候補届出票の郵送方法(規則に書留郵便と明記されていますが、普通郵便で送られ追跡不能となったケースもありました)、食道疾患に関する研究業績の定義やその期間の解釈について、多くの質問をいただきました。過去の通例を踏襲しながらも、選挙管理委員会として判断させていただいた点が多々あります。しかし、規則に曖昧な点があることが分かりましたので、次回までには規則をより明確にする作業を行う予定です。

### 保険診療検討委員会より

保険診療検討委員会 委員長

加藤 広行(獨協医科大学 第一外科学)

保険診療検討委員会は外科系学会社会保険委員会連合(外保連)を通じて委員会の活動を行っていますので、その状況についてご報告致します。

本委員会では平成28年度の診療報酬改定に向けて、外保連手術委員会に要望項目を新設3項目、改正5項目、材料1項目を申請しております。その内容は、技術新設として、①食道内多チャンネルインピーダンス・pH測定検査(再要望)、②高分解能食道運動機能検査(再要望)、③化学放射線療法・放射線療法後の遺残再発食道がんに対するタラポルフインナトリウムおよびPDT半導体レーザーを用いた光線力学療法を申請しています。技術改正は、胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術における加算の付加(①自動縫合器の加算、②自動吻合器の加算、③超音波凝固切開装置等の加算、④有茎腸管移植を併せて行った場合の加算)を要望しています。さらに、⑤食道ステント留置術(経管腔食道形成術)の点数見直しも再要望しています。材料新設は遺残再発食道癌専用単回使用レーザーガイド用プローブの点数新設を申請致しました。

手術委員会は平成27年に手術試案第8.3版を完成させ、手術術式のコーディング作業の精緻化などを行っております。そのほかの活動は、DPC 評価分科会より平成27年度における診断群分類の見直しに係る調査などの作業を進めています。主に臨床実態に即した診断群分

類の改定作業や、様式1(診療録情報)入力項目の新設・廃止等の提案など細分化の見直しを行っています。

保険診療に係る情報やご質問などについて、会員の皆様のご意見を伺いたいと思います。どうぞ、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

### 全国登録委員会より

全国登録委員会 委員長

日月 裕司(国立がん研究センター中央病院 食道外科)

“Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2007”と“Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2008”を発行しました。また同冊子の抜粋版がEsophagusのOnlineに掲載されました。

2009年症例を対象とした登録は2015年3月に終了し、現在解析中です。ご協力いただいた施設の皆様に感謝申し上げます。また、登録ソフトの不具合でご迷惑をおかけしたことをお詫びします。

2001～2003年のデータをもとに鎖骨上リンパ節転移の治療成績を解析し、論文としました(J Thorac Cardiovasc Surg 2014;148:1224-9)。2001～2003年のデータをもとに各リンパ節のEfficacy indexを解析し、リンパ節群分類の改定の資料として提供しました。論文としてEsophagusに投稿中です。

今後とも、皆様のご協力をお願い申し上げます。

### 2015年度消化器外科領域

### NCD研究課題公募の結果について(NCD部会より)

NCD部会 部会長

藤 也寸志(国立病院機構九州がんセンター)

一昨年、昨年に引き続いて、今年も消化器外科学会による『NCDデータを利用した消化器外科領域新規研究課題』の公募がなされ、1月～2月に食道学会外科系会員の皆さんからの公募を行いました。その結果、以下の研究課題の応募があり、理事会において承認され、現在、消化器外科学会に申請しています。

【研究課題名】 NCDデータを用いたわが国における  
高齢者食道癌手術の現状とリスク評価

【研究代表者】 松原 久裕 先生(千葉大学先端応用外科)

〔参考〕2013年「わが国における胸腔鏡下食道切除術の安全性評価とリスクモデルの確立」  
(慶應義塾大学外科 北川 雄光先生)

2014年「NCDにおける食道切除後のリスク調整死亡率を用いた施設間格差の検討」

(京都大学消化管外科 岡部 寛先生)

この研究課題の公募は、今後も継続されると予想されます。NCDへ支払うデータ解析費用は一昨年、昨年は200～300万円であり、今後データ量の増加によりさらに高額になる可能性もあります。食道学会による支援金額の検討が必要です。また、authorshipや食道学会の関与の表示方法や投稿雑誌を規定するかなど、検討すべき問題があります。来年度の新規課題の公募前に、NCD部会のみならず研究推進委員会や財務委員会などとの共同で、早めにこれらの問題点を検討する予定です。

## 専門医制度委員会

### 食道科認定医認定部会・食道外科専門医認定部会より

大杉 治司(大阪市立大学大学院医学研究科 消化器外科)

平成26年度の食道科認定医、食道外科専門医の新規認定および更新についてご報告申し上げます。

まず、食道科認定医は72名の新規認定申請がありました。書類審査の結果、72名が食道科認定医として認定されました。また、更新は74名が更新申請手続きをとられました。そして、74名が更新認定されました。認定該当の先生方には事務局より既にご連絡いたしております。この結果、食道科認定医は専門別に、外科:762名、内科:61名、放射線科:23名、基礎系その他:6名で累計852名(有効資格者728名)となりました。食道外科専門医は15名の申請があり、業績、臨床症例の審査を行いました。その後、筆記、口頭試験を行い12名が食道外科専門医に認定されました。また、44名が更新認定されました。この結果、食道外科専門医は累計229名(有効資格者207名)となりました。

平成27年度の申請は、既に食道学会ホームページにてお知らせいたしております。

### 修練責任者が不在になった認定施設の扱いについて (食道外科専門医認定施設認定部会より)

食道外科専門医認定施設認定部会 部会長

矢野 雅彦(大阪府立成人病センター 消化器外科)

「認定施設」においては食道外科専門医が修練責任者として常勤していることが、「準認定施設」においては外科系の食道科認定医が修練責任者として常勤していることが必要です。

認定期間中に修練責任者の資格が喪失(更新忘れ、更新希望せずなど)した場合や人事異動などにより修練責任者が不在になった場合は、以下のように扱います。

1. 後任の修練責任者として同じ資格を有する者がいる場合:速やかに「修練責任者変更届」を提出して下さい。
2. 後任に同じ資格を有する者がいない場合:
  - ①食道外科専門医は不在になったが外科系の認定医がいる場合  
→ 認定医を修練責任者にして「準認定施設」に変更。  
認定期間は残りの期間を引き継ぐ。
  - ②食道外科専門医も認定医も不在になった場合  
→ 認定取り消し。
  - ③ただし、地域によっては専門医数、認定施設数が極めて少ない状況を考慮して、1年程度の修練責任者の不在期間は許容します。  
例)平成27年3月末で修練責任者が退職した場合、その施設の常勤外科医の誰かが平成27年7月の専門医申請または認定医申請を行い、平成28年1月付で認定されれば、認定を継続します。
  - ④修練責任者不在期間中であっても1年以内であればその施設からの修練生の専門医申請は受け付けます。  
※ その場合、「修練カリキュラム修了認定書」へのサインは退職した修練責任者のものを可とします。

ご不明な点がございましたら、事務局までご連絡をお願いします。

## 食道癌取扱い規約委員会より

食道癌取扱い規約委員会 委員長

松原 久裕(千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科)

以前よりご案内をしておりますように『食道癌取扱い規約』第11版につきまして、2015年7月の第69回学術集會に間に合わせ、出版できるよう準備を進めています。この3月6日まで会員の皆様に前回の評議員会以降、委員会にて検討し、追加修正した改訂案をホームページに掲載し、パブリックコメントを募りました。追加修正の主な変更点は、

- T1a0をT1a0A(腹側)とT1a0P(左背側)に分けた
- T1aN1をStagellに変更した

の2点でした。

いただいた意見の結果を受け、さらに改訂を進め、規約委員会、理事会を経て、現在発刊へ向けての最終の作業を金原出版に協力をいただき鋭意進めております。皆様のご協力により、より良い食道癌取扱い規約が完成すると考えております。出版まで厳しい日程の作業が続きますが、間に合うよう頑張っていきます。今後ともよろしくお願い致します。

## 研究推進委員会より

研究推進委員会 委員長

藤 也寸志(国立病院機構九州がんセンター)

食道学会に、新たに『研究推進委員会』が作られました。その目的は、食道学会が主導する形で、食道疾患の病態・診断・治療などに関して早急に検討するべき問題点や課題を明らかにして、その解決を図ることです。これにより、日本の食道疾患研究のさらなる活性化を目指します。

本委員会の活動のイメージとしては、委員会の主導さらに評議員の皆さんからの公募によってプロジェクト研究を立ち上げ、審査の後に多施設チームを中心とした研究やオールジャパンのデータ収集・解析を促進することです。研究の進捗状況や成果は食道学会などで発表され、さらに論文化されて日本からのエビデンスとして世界に発信されることになります。

実働を開始する前に、研究課題の募集や審査の方法、新しい統合倫理指針に基づく倫理審査のあり方、論文投稿雑誌やauthorshipに関する規程、ホームページにおける市民への広報、研究費用の予算化などの事項を研究推進委員会で検討します。今年度の学術集會までに、大卒をご報告できる予定です。

本委員会の活動を通じて、外科・内科・放射線科・基礎を問わず、食道学会において活発なNation-wideな研究ができるように、会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 総務委員会より

総務委員会 委員長

島田 英昭(東邦大学 外科学講座 一般・消化器外科)

3月の理事会にて、松原久裕理事長からご提案のありましたように、従来の委員会の枠組みでは議論されていなかった総論的な案件について取り扱う委員会として「総務委員会」が組織され、理事の島田英昭が委員長を拜命いたしました。

総務委員会の使命として、事務局の運営や毎年の学会運営に関わる業務分担などについて、従来の慣例を尊重しながら、より効率的な運営

を目指してまいりたいと思います。発足メンバーは、理事の島田英昭、事務局員を含めて合計8名です。河野辰幸先生(財務)、猶本良夫先生(広報)、唐澤克之先生(会則)、渡邊雅之先生(教育)、宮崎達也先生(食道癌診療ガイドライン)、阿久津泰典先生(事務局長)および事務局員1名です。7月の日本食道学会の際には、当面の優先課題である事務局運営規定や雇用契約などについて原案をご提案できるようにしたいと考えております。日本食道学会の効率的な運営に貢献できますよう努力してまいりたいと存じます。会員の皆様からも種々のご要望がございましたらご連絡ください。

## 医療安全委員会より

医療安全委員会 委員長

夏越 祥次(鹿児島大学 腫瘍制御学・消化器外科学)

本年度から松原理事長の発案により、医療安全委員会が新設されました。医療安全に関する委員会はすでに設立されている学会も多く、各病院でも院内講習会やインシデント・レポートの提出により安全管理が行われています。今後は各専門医取得のために医療安全に関する講習を受けることが必須になることも考えられます。

このような状況の中で、食道学会にも、医療安全委員会が発足した意義は大きいと考えられます。食道癌手術は高度技術を要し、また術後合併症も他の臓器に比べ多く見られます。また、最近の治療は、内視鏡的治療、胸・腹腔鏡手術、開胸・開腹手術、さらに化学・放射線治療、サルベージ手術など多岐にわたっています。様々な観点から食道疾患に関する医療問題事例に取り組んでいこうと考えています。

委員の先生方は外科、内科、放射線科、治療の専門性および地域性を考慮してお願いいたしました。各関連学会との連携も取りながら、食道疾患の安全情報の提供とともに再発防止策の共有に努めてまいりたいと思います。

## 準会員募集のお知らせ

チーム医療を担う医療専門職の方々へ

### 日本食道学会 準会員募集

食道疾患の臨床では、看護師、薬剤師、リハビリテーション、管理栄養士、臨床検査技師、放射線技師、臨床工学技士、MSWをはじめとした医療専門職のみなさんが主体のチーム医療が不可欠です。食道に関心を持つ多くの医療専門職の方々に準会員になって頂き、質の高い研究成果を発表していただくことを期待しています。

入会金 無料 年会費 3,000円

日本食道学会準会員入会手続き  
<http://www.esophagus.jp/associate.html>



準会員入会は  
食道学会ホームページより

## 2016年以降の学術集会のご案内

### ◆ 第70回日本食道学会学術集会

会長:宇田川 晴司(虎の門病院 消化器外科)

会期:2016年7月4日(月)~6日(水)

会場:ザ・プリンス パークタワー東京(芝公園)

### ◆ 第71回日本食道学会学術集会

会長:小山 恒男(佐久医療センター 内視鏡内科)

会期:2017年6月14日(水)~16日(金)

会場:軽井沢プリンスホテル

## \*編集後記

5月1日より新会計年度となっておりますが、本年度より会費が改定となっております。負担増となっておりますが、消費税の値上げ等多くの財政上の困難の中、様々な活動を充実していくため皆様のご理解をいただきますようお願い申し上げます。

さて、第11版『食道癌取扱い規約』が近日中に発刊されます。重要な改訂がなされておりますので、是非お求めいただきますようお願い申し上げます。また、松原理事長のもと、新たに総務委員会、医療安全委員会、研究推進委員会が発足いたしました。それぞれ、医療、食道学会を取り巻く環境の変化に対応するものであり、これからの活動が期待されます。

困難な手術・治療を安全に質高く行うことが、昨今さらに厳しく求められています。小澤会長のもとで行われます第69回学術集会におきまして、こういった課題に対する意欲的な企画が目白押しです。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

それでは7月2日、3日にパシフィコ横浜でお会いいたしましう。(了)

広報委員会 委員長 猶本良夫  
委員 阿久津泰典、有馬美和子、出江洋介、熊谷洋一、竹内裕也、奈良智之、前原喜彦、白川靖博、山崎 誠、山辻知樹

特定非営利活動法人 日本食道学会 事務局

〒130-0012

東京都墨田区太平2-3-13 廣瀬ビルディング4階

電話・FAX 03-6456-1339

e-mail:office@esophagus.jp

ホームページ <http://www.esophagus.jp/>